

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892700154		
法人名	株式会社榎戸工務店		
事業所名	グループホームE☆ホーム		
所在地	茨城県筑西市茂田1396番地3		
自己評価作成日	2023年1月1日	評価結果市町村受理日	2023年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&Jivzovocd=0892700154-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2023年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自宅で生活しているような暮らしを維持できる、またご家族様には実家のように気軽に訪問いただける、そんな家族愛に満ちたホームを運営しております。認知症の諸症状を個性とし、温かく見守り、楽しい体験をより多く持てるよう、また利用者様の生活力が維持できるよう、そして利用者様自身が持っている力を十分に活かせるよう、お手伝いさせていただいております。国や県、市のコロナの感染状況等を常時確認しながら、利用者様とご家族様の体調も事前に確認のうえ、感染対策をとって面会を行っています。利用者様の個別・体調に合わせて、ホーム内外での楽しみを発見できるよう工夫をしております。また、ラインで、ご家族様に利用者様の近況を知らせることで、ご家族様と身近につながる事が出来、好評を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の道路を挟んだすぐ前の工務店が本社なので、連携が取りやすく、クラスター発生時には本社より買い出しや差し入れがあり、管理者の10日間24時間体制と職員が休日返上で全力で対応したことで、支障なく乗り越えられ、全職員の結束が一段と高まった。利用者の様子をアプリ等で家族に伝え、[自宅にいるように安心して生活しているようだ]と好評である。利用者の状況に合わせた柔軟な対応をしている職員が自慢だという管理者の話があった。
* 新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族愛の理念のもと、利用者様もご家族様も職員もひとつの家族構成員として安心安全に生活できるよう、一人ひとりの個性に合わせ、お手伝いをさせていただいております。	理念を理解し、事業所にかかわる全員が一つの家庭と捉えるということを実践につなげている。管理者は利用者以上に仕事を大切にする職員に感謝しているとの事。職員は利用者を自分の親のように感じ、お手伝いさせて頂いているという気持ちで日々ケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の体調を確認し、コロナの感染予防対策をとったうえで、外出行事を行っております。介護相談や入退所に関しては、個別に対応しております。	自治会に加入しているが、現在は地域交流は自粛している。先日は空き缶拾いに参加した。家族からの差し入れ・近隣から野菜や飲み物の提供を受ける時がある。地域住民から福祉・認知症・介護について相談があった時は、感染対策をとり、話を聞き、アドバイスを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や民生委員からの相談や地域の方らの相談を受け、十分な感染予防対策の上、個別に対応しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、市からの助言や指導により書面での実施。 全職員が確認し、必要な対策を講じている。	コロナ禍の為、運営推進会議委員(区長・民生委員・元施設長・全家族・行政)に書面報告の前に意見を聞いている。返信結果を議事録にまとめ、全員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の指導に沿って、月1回の状況報告。 必要に応じて随時、電話や書面等で報告し指導を受けております。	毎月の利用状況報告と運営推進会議報告を行っている。直接出向くことは控えているが、必要に応じ電話や書面で連絡を取っている。コロナ感染時は行政・保健所・主治医の指導を受け対処できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会、申し送り時、職員会議などを活用し、意識して行動できるように、身体拘束のみならず、言葉遣いや表情、態度なども常に確認し指導しております。	身体拘束適正化委員会を設置し3か月ごとの勉強会の内容を、申し送り・回覧押印で共有し、拘束をしないで、利用者の安全・安心に向けたケアに取り組んでいる。スピーチロックやグレーゾーンについてもその都度話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケア同様に常に意識して行動できるよう、常に職員同士で確認し合い、指導しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様皆さんがしっかりしており、経済的にも心配な方はいません。職員には研修や資格取得などを通して、知識の必要性を進めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前や入所時に分かりやすく詳細に説明を行い、ご理解、納得を頂いております。入所後も随時、書面やオンラインなどにより、不安の解消に努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートにより意見を求めています。今のところありません。意見には真摯に取り組んでいきます。	意見箱の設置・第3者機関名を明示している。請求書と一緒に写真を添えて、状況・様子を知らせている。アプリの動画やビデオ通話は利用者の様子が分かること好評である。アンケートには感謝の言葉と職員を気遣う言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見が出やすい環境づくりをしている。利用者様やご家族様にとって良い事や職員にとって働きやすい提案や意見は積極的に聞き入れられている。	連絡や報告は申し送りノート・業務用連絡帳で共有している。自己評価を毎月実施し、能力に合わせた研修受講・実地指導等でレベルアップに努めている。管理者と職員の関係は良好で何でも話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生については地域の事業所さんの水準よりアップを心掛けている。職員には自己評価を毎月実施、報酬に反映させている。職員の意識改革、介護力アップに向け、個々の能力に合わせた指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力に合わせ、施設外の団体研修の受講を進めたり、施設内では業務を通しての実地指導、感染予防対策を講じた上で研修、研修資料を通しての個人学習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため、電話やラインでの意見交換、状況相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集。出来る限り施設見学をしていただき、面接をし、ご本人様やご家族様の不安や要望などを聴き取り、少しでも不安感を取り除けるよう工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ、ご家族様の思いを伺っております。傾聴共感をもって不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査や面談により、ご利用者様やご家族様の気持ちに寄り添った提案をし、ご理解を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、共に生活をする家族の立場に立って、日常生活が送れるよう努力している。見守り、寄り添う事を大切にし、時間がかかっても自分で出来る幸せを感じてほしいとの考えのもとに支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にとり、利用者様の気持ちを代弁したり、ご家族様に事前説明と了解のもとにラインで近況報告、写真や動画を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に対応。国や県、市などの基準をもとに感染予防対策を講じた面会やテレビ電話を活用している。	電話・手紙の支援は要望に応じて対応している。現在は主に窓越しの面会とテレビ電話で家族等と話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの個性を把握し、利用者様同士で協力や助け合える関係の構築に努め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、療養型入所の利用者様がおりましたが、ご家族の希望で回復時には再入所を受けたり、退所後も随時、ご希望や相談は受けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や仕草などから、ご本人の気持ちや思いを汲み取るようにしている。	生活歴・職歴から得意とする分野の役割を持ってもらい、利用者のやりがいに繋げている。落ち着いた利用者寄り添い、傾聴することにより、穏やかな表情で過ごすことが出来るようになった。利用者が利用者の面倒を見ている光景がある。利用者との関係が深まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集や共に生活するなかで、思いつきや生活習慣等をコミュニケーションや観察から把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や仕草などを観察したり、利用者様本人やご家族様に聞き取りをして把握し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が利用者様との関わりのなかで、変化や発見からカンファレンスに繋ぎ、ケアマネジャーがご利用者様、ご家族様や主治医の意見をもとにケアプランを作成。利用者様やご家族様にご納得いただいている。モニタリングは毎月、評価は3か月に1回を基本に、利用者様の身体状況の変化によってはこの期間に限らずに随時実施し、プランに反映している。	利用者や家族等から意見や要望を聞き、カンファレンスで日ごろの様子や変化からニーズとケアのあり方を話し合いケアプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。長期・短期目標に向けて提供したプランの内容を記録している。マーカーと色分けしたボールペンで特記事項がわかりやすく工夫されている。モニタリングは1か月ごとに実施し支援経過記録に残し、3か月後の評価に繋げている。変化があれば、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の色遣いの工夫。注意事項やマーカーを使用し、見やすくしている。記録の書き方についても、随時指導継続し、分かりやすく正確な情報を申し遅れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの状況や個性に合わせ、個別に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため制限もあるが、管理者対応で野菜の差し入れ等の協力を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は2か所。必要に応じて歯科医師の往診も受けている。2週間に1回の往診、歯科医院の口腔ケアを受けている。西部メディカルや協和中央病院とも連携は良い。	2か所の医療機関より往診を受けている。受診結果は支援経過の中に残し、アプリ等で家族等に伝えている。専門医受診の場合は日ごろの様子を書面に記して家族等からドクターに渡している。緊急時は医師に連絡をとり指示を仰ぎ対応している。訪問歯科による口腔ケアを全利用者が受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医院の看護師との報告・連絡・相談は密に行っている。定期的に看護師が施設に来所して利用者様の状態を確認しており、関係良好。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの関係も良好で、電話や面会などを通して、退院の指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者やケアマネージャーと24時間オンコールの実施。緊急時には対応している。	マニュアルや指針は個人個人違うので作成していないが、契約時に口頭で希望を聞いている。重篤になる前に医師から家族に説明があり、その都度話し合い、今後の方針を決めている。今までは医療機関に転院が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各ユニットに配置、管理者などのオンコールにより指示を受けている。または往診医院の医師や看護師からも定期的に助言指導を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体、榎戸工務店に炊き出し設備あり、市議会議員でもある施設長のため、地域の支援体制には期待できる。避難訓練も実施し、避難口のスロープの準備を進め、今年度中に完成予定。	消防団と連携をとって行く予定である。いざとなった時に戸惑わないように日ごろから非常口から出入りしたり、下肢筋力を鍛えるために散歩や体操に力を入れている。備蓄品・緊急持ち出し用品を準備している。母体の工務店に炊き出し設備があり、地域住民との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方、職員間の会話も指導し、節度ある言葉遣い、対応が出来ている。	言葉かけが威圧的にならないように、トーンや口調に注意しながら笑顔で対応している。利用者が嫌だと思っている気持ちは表情から受け止めている。書類は事務室で管理・情報開示に向けて同意書を取り交わし個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にとり、利用者様の思いや希望を汲み取るように努力している。思いや希望を表出するのが難しい利用者様には行動の観察や共に行動を少しでも思いや希望を汲み取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活ペースを利用者様本人に確認をしながら、守るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでいただいたり、個人のこだわりは尊重している。洋服も選びやすいようにタンスに表示したり、利用者様の許可を得て見やすいように整理している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味付け・味見、片付けなど利用者様の出来る作業を把握し、職員と一緒にやっている。	1週間のメニューを管理者がたてている。野菜をもらった時は使用している。キッチン係の職員が主に調理しているが、下ごしらえ・味見・下膳・食器拭き等を利用者もやっている。食事形態は利用者の状態に応じて、刻み・トロミ等で提供している。職員は介助を行いながら、他の利用者も見守りつつ同じテーブルを囲んで食事をしている。月1-2回の季節を意識したお楽しみ会やおやつバイキングは楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは利用者様に合った食材献立を、管理者により指示、水分は定時のみならず常時提供。本人のコップが空いた時は職員が本人に声をかけてお茶を入れたり、テーブルにお茶を入れたヤカンで利用者様が自ら入れている時もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き実施。利用者様同士で声掛けする事もある。職員も利用者様の出来る力を把握しながら一人ひとりに合った支援の実施。歯科医院より定期的に口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ対応の方も、日中はリハビリパンツや布パンツにて排泄介助を実施。排泄援助にて習慣が出来ている。個々の排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないように配慮している。	夜間おむつ対応の利用者も昼間はリハビリパンツでトイレ誘導しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。それぞれの排泄パターン・表情・様子を把握し自尊心を尊重した声掛けで、失禁が減り、改善した利用者がある。乳製品・食材・水分・運動・体操等で便秘解消に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにより管理している。ヨーグルトや牛乳、繊維質の多い食品を心掛けたり、利用者様が摂っている水分量も確認し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を決めず、自ら進んで入浴できるよう、自分なりの入浴ができるよう、支援している。支援のため、利用者様本人やご家族様から情報収集を行い、入浴習慣を把握している。	利用者の希望(回数・時間帯)に応じた入浴支援を実施している。ゆず湯・しょうぶ湯・温泉の素を提供している。利用者が作った足ふきマットは一人ずつ交換している。着替えは自分で、もしくは職員が聞きながら準備している。拒否があった場合は無理強いしないで、利用者の気持ちを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、日中の活動の活発化を図っている。あくまでも個人の状況による。睡眠導入剤や安定剤の服用者はなし。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者の指導と管理により、医師や薬剤師よりの情報を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの流行状況を確認しながら、行事・レク・趣味等、個々にあった支援を提供している。月1・2回に昼食やおやつのパイキング、季節食や季節のおやつを提供。利用者様から好評を得ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染状況を確認しながら、利用者様の体調も考慮しながら、近隣への外出は行っている。	コロナ禍で遠出は控えているが、近場での花見や紅葉ドライブを実施した。園庭を散歩したり、お茶を飲んで、太陽の日差しを浴びている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの感染状況を確認しながら、現在は自粛しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者ご本人様の希望で自由。個々の希望に沿って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりに聞き取りをしながら、落ち着いた壁紙など、空間づくりに努めている。	玄関周りはお花と水槽の金魚とメダカが微笑ましい雰囲気を出している。家庭菜園での苗植えや収穫は利用者の楽しみとなっている。壁に四季の写真・職員の孫の写真を飾り話題提供としている。椅子に置いている人形や大きなぬいぐるみはそれぞれ役目がある。洗面台には利用者手製の手拭きタオルが置いてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様に聞き取りをしながら、ソファを多く置くことによってくつろげ空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時やその後も持ち込み自由となっている。	居室入り口に名前を掲示し混乱防止に努めている。ダンス・ハンガーラック・テレビ・椅子・ソファ等の配置は利用者の動線を考慮しながら設置している。家族の写真・塗り絵・ぬいぐるみ・お花等を飾り、個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すり、バリアフリー、歩行不安定な方は付き添い、見守り対応を徹底している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム E☆ホーム

作成日 令和 5 年 3 月 6 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	54	利用者様のベッドが電動でないものもあり、利用者が自分で楽に乗降出来る可能性のある利用者様の乗降を介助している時もあるため	利用者様のベッドを電動式に入れ替えしご本の持っている力を活用できるようにする。 職員の腰痛などの軽減を図る。	利用者様が戸惑わないように、ベッドが変わる事をお伝えして入れ替え、使いやすい高さに調整。	12ヶ月
2	13	施設内での認知症介護研修は常時行っているが、職員の更なる知識向上に向けての取組み	認知症介護基礎研修の全職員取得	職員が受講できる勤務体制をとる。 受講のための機材準備、使い方の説明を事務長が行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。